

関係人口創出の現場から
「雪国インターンin越前大野」の活動報告

2026/2/22 関西大学まちづくり研究活動報告会
大野市地域おこし協力隊 川口 昶司



大野市地域おこし協力隊・横町編集部

川口 赴司 (26)

東京都品川区洗足 出身
関西大学 環境都市工学部 建築学科 2023年度卒業

大野に関わり始めて学生時から4年目。
大野市と関西大学の連携協定による地域活動拠点（関西大学横町スタジオ）の運営団体・横町編集部にも現地コーディネーターとして従事。
日頃の拠点のお手入れや単位取得型授業の企画・運営、教育プログラムの運営にも関わっています。

雪国インターン
note記事



横町編集部Instagram



奥越スパイス研究会
Instagram



地域おこし協力隊



雪国インターン

都市部の学生を対象にした、短期滞在型インターシップ

企画・広報から運営まで

地域サークルの 立ち上げ・運営



奥越スパイス研究会

地域資源の再発見を目的とした、スパイスカレーサークル

- ・ 飲食出店、間借り運営
- ・ 拠点の開発や運営

大学連携事業



横町編集部

関西大学との連携事業による横町スタジオのお手入れ団体

- ・ 単位認定滞在型講義の運営
- ・ WSの企画・実施・運営
- ・ 春日通りラボ改修 など³

大学のPJがきっかけで
大野に関わる

高校生まで東京で育つ

大学で大阪へ

盆・正月は東海道のみを移動

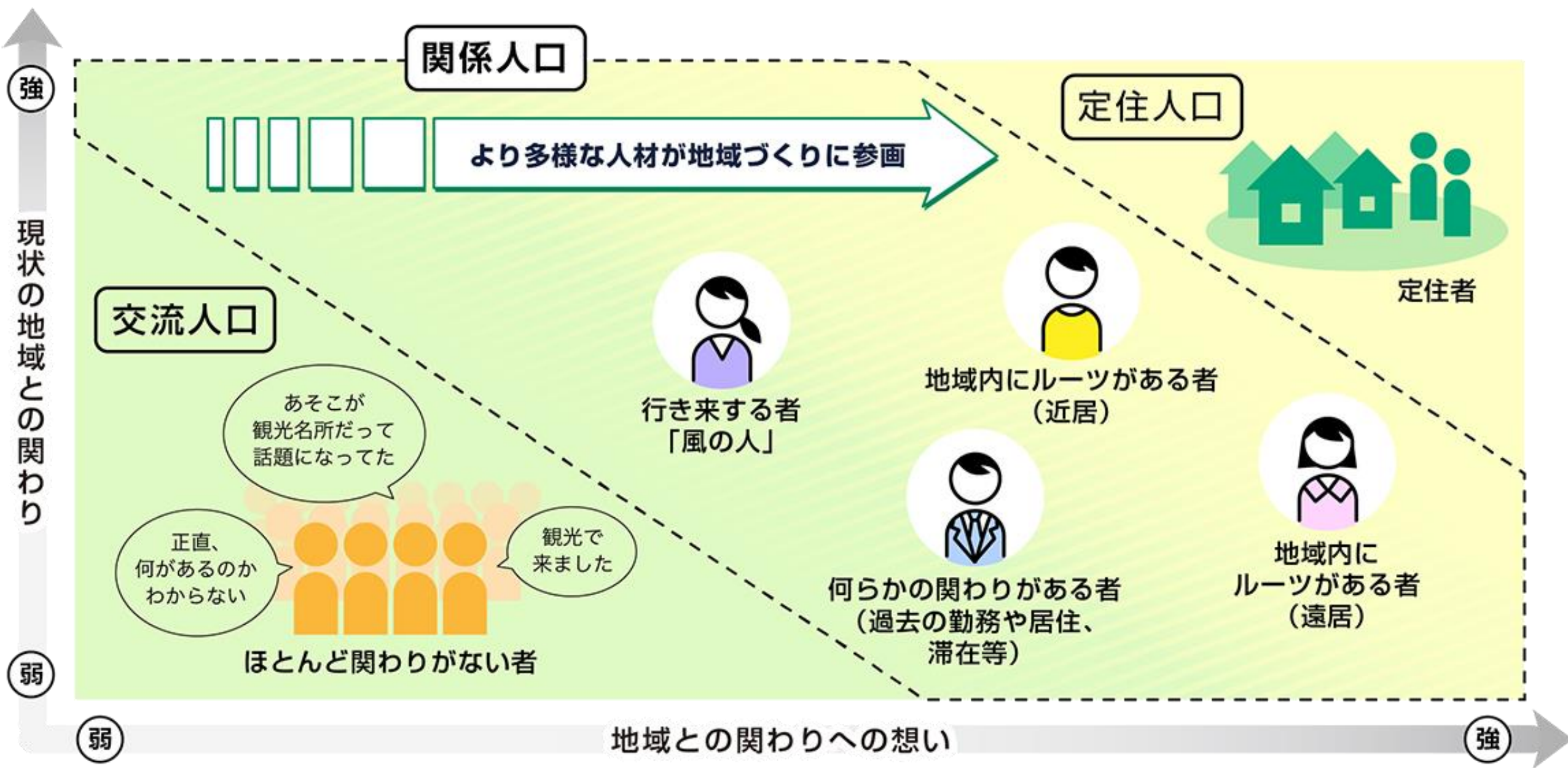


大学に入って感じたこと…

「ふるさと」と思える場所がないこと

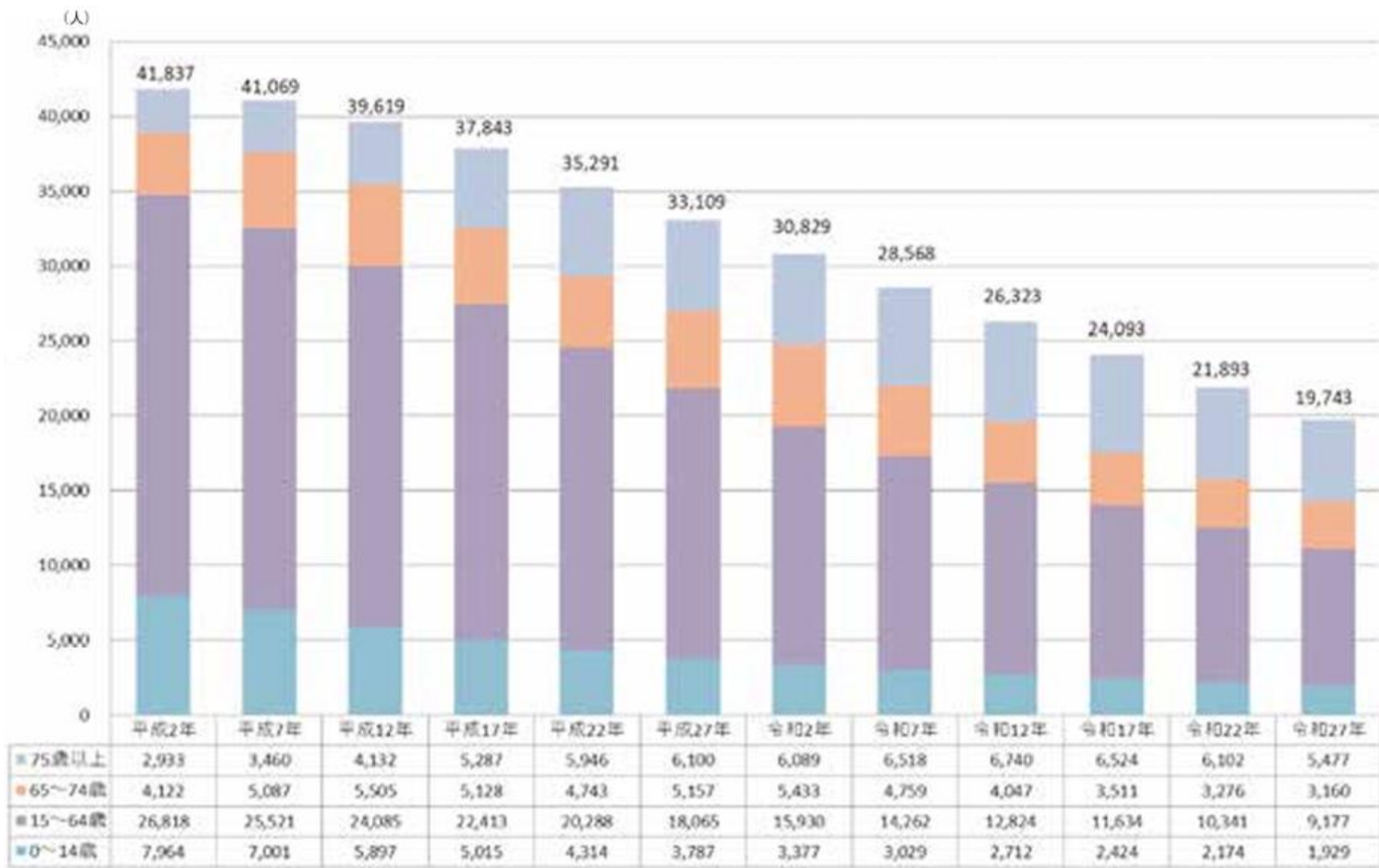
関係人口創出コーディネーター業務

関係人口とは



課題の定義

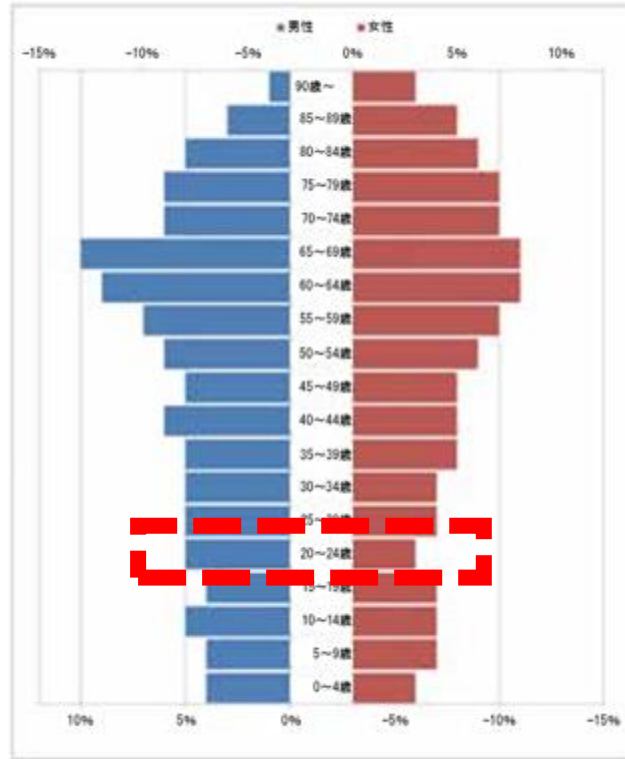
人口が減ることにより
一人当たりの役割が増える



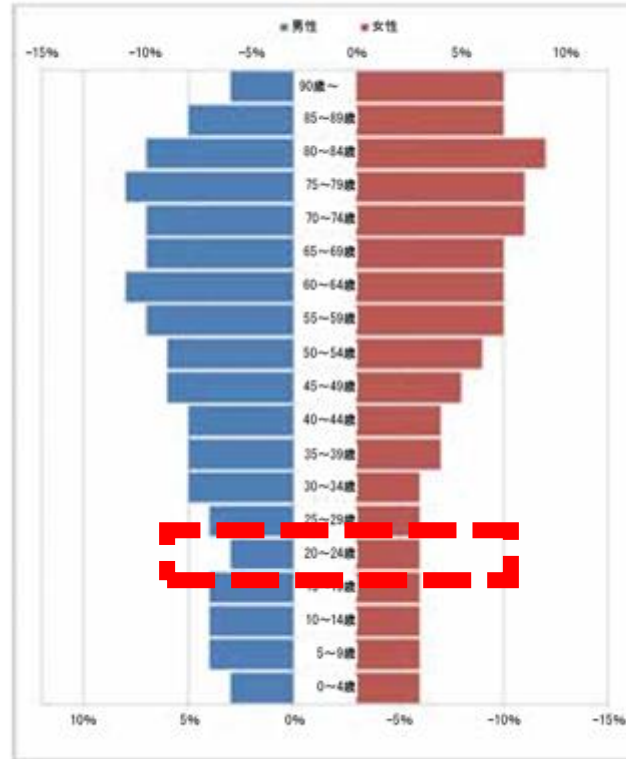
← 国勢調査による実績値

→ 国立社会保障・人口問題研究所による推計値

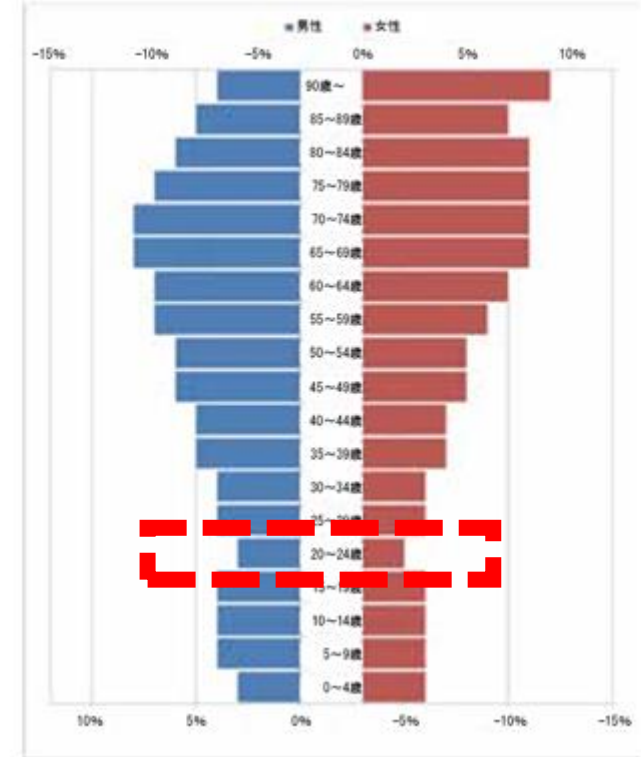
平成27年（2015年）



令和12年（2030年）



令和27年（2045年）



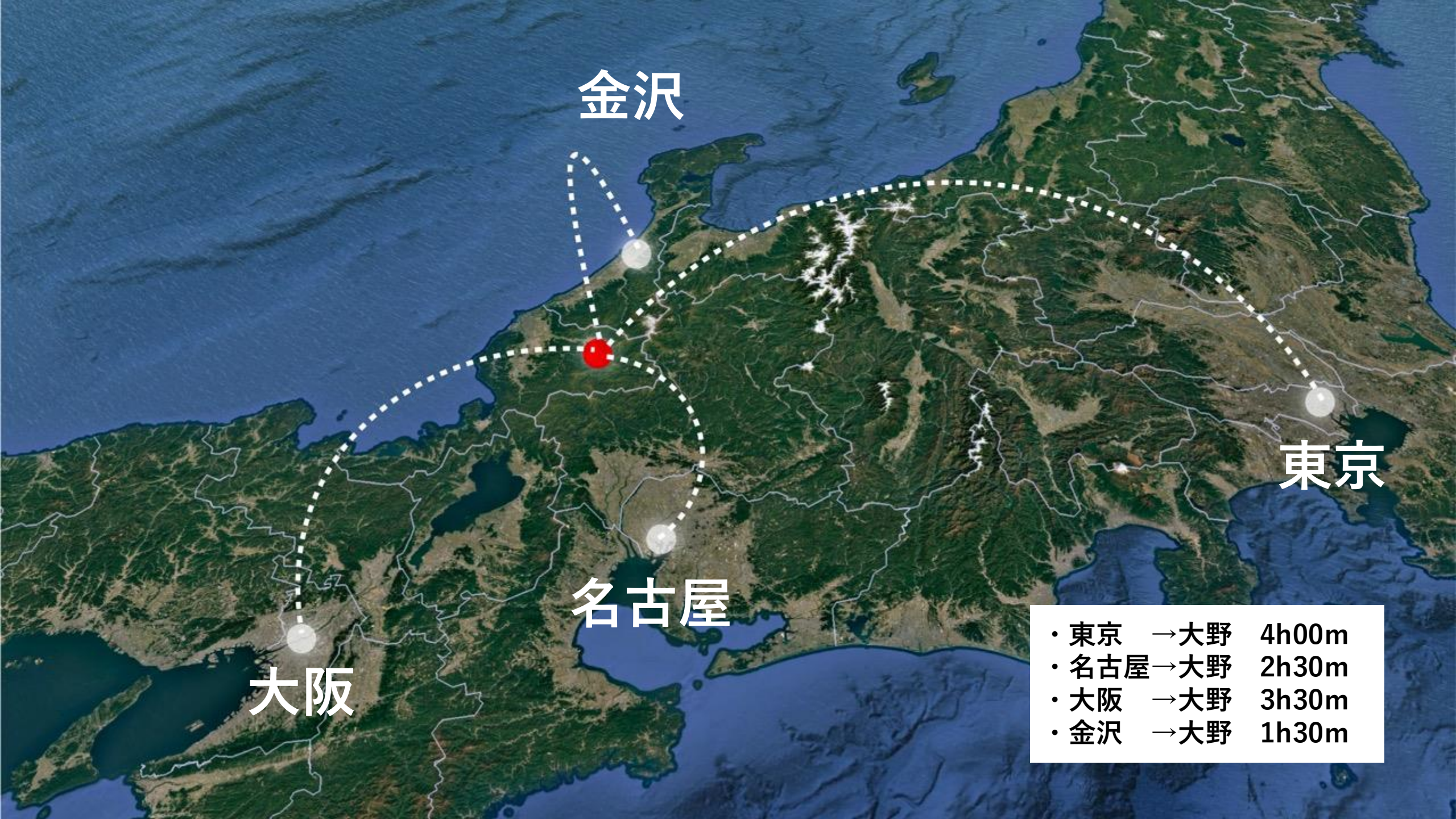
関係人口創出のターゲット

大学生

関係人口創出コーディネーター業務

大学生が

大野に定期的に訪れたいくなる企画や仕組みの構築



金沢

東京

名古屋

大阪

・ 東京	→ 大野	4h00m
・ 名古屋	→ 大野	2h30m
・ 大阪	→ 大野	3h30m
・ 金沢	→ 大野	1h30m

短期滞在型実践インターン

「雪国インターン in越前大野」

in 越前大野

雪国
インターン
2025
夏

| 応募締切 |
2025年
7月7日 | 月 |

| 実施期間 |
2025年
8月4日 | 日 | 月 |
| 8月22日 | 金 |

| 開催場所 |
福井県大野市 (JR 福井駅から約1時間)

| 参加費 |
¥5,000
| 別途費用 | 交通費 (一部補助) 宿泊費 (1泊2食) 食費 (1食) 雑費 (1食) 保険料 (1食) 合計 ¥5,000

| 対象 |
全大学生・大学院生
| 主催 |
大野市地域おこし協力隊 川口拓也
| お問い合わせ |
takeda@3kawa01@gmail.com
| 協力 |
福井県大野市

2025年7月7日締切

2025年8月4日～8月22日実施

福井県大野市

ようこそ雪国の南国へ

福井県大野市は、福井県の東部に、そして全国の特別豪雪地域の中でも南に位置し、自然が豊かで、周囲を山々に囲まれている盆地地形のまちです。市街地には天窓の城として知られる越前大野城があり、その裏には城下町が広がっています。また、まちなかには、糸水河原に湧いた「御清水」などの湧き水が多く、水の都としても知られています。清らかな湧き水や豊かな緑が広がる夏の大野で、地域ならではの祭りや仕事を体験して、まちづくりの現場や都市部にはない「雪国の夏の暮らし」と出会ってみたいませんか。



| インターン先 |

8/4(月)～8/8(金) 8/9(土)～8/13(水) 8/18(月)～8/22(金)

<p>福井県農工センター 【実務3名】 観光客と地域産品を巡って、まちづくりの現場を体験</p> <p>福井県農工センターは、大野市和歌地区を中心に、農産物の生産、加工、流通、消費の場をつくりだす役割を担っています。また、観光客と地域産品を巡って、まちづくりの現場を体験</p>	<p>横町農業部 【実務3名】 中継車、トラック、コンテナなどを使い、農産物を運ぶ現場を体験</p> <p>横町農業部は、中継車とトラックを使い、農産物を運ぶ現場を体験。また、コンテナなどを使い、農産物を運ぶ現場を体験</p>	<p>きむら牧場 【実務3名】 大野市の暮らしや地域を学ぶことを通して、自身の成長を体験</p> <p>きむら牧場は、大野市の暮らしや地域を学ぶことを通して、自身の成長を体験。また、大野市の暮らしや地域を学ぶことを通して、自身の成長を体験</p>
<p>純ちゃん農園 【実務2名】 夏野菜の収穫や販売の現場を体験</p> <p>純ちゃん農園は、夏野菜の収穫や販売の現場を体験。また、夏野菜の収穫や販売の現場を体験</p>	<p>(株) 白山やまぶどうワイン 【実務2名】 ぶどうの栽培やワインの醸造の現場を体験</p> <p>(株) 白山やまぶどうワインは、ぶどうの栽培やワインの醸造の現場を体験。また、ぶどうの栽培やワインの醸造の現場を体験</p>	<p>(株) 木の家工房 松谷建築 【実務2名】 木造建築の現場を体験</p> <p>(株) 木の家工房 松谷建築は、木造建築の現場を体験。また、木造建築の現場を体験</p>

| オンライン説明会 |

6/11 | 水 | 第1回
6/18 | 水 | 第2回
18:00-19:00

説明会申し込みリンクはこちらです。申し込み確認メール、オンライン説明会のリンクを送付させていただきます。

12月の日程もぜひご確認ください。詳細はご返信させていただきます。

説明会申し込みはこちらのリンクから

詳細はこちらのnote記事から



受け入れ事業者：6社

広報先大学：関東・関西の国公立、私立大学

説明会参加申し込み学生：54名

参加申し込み学生：25名

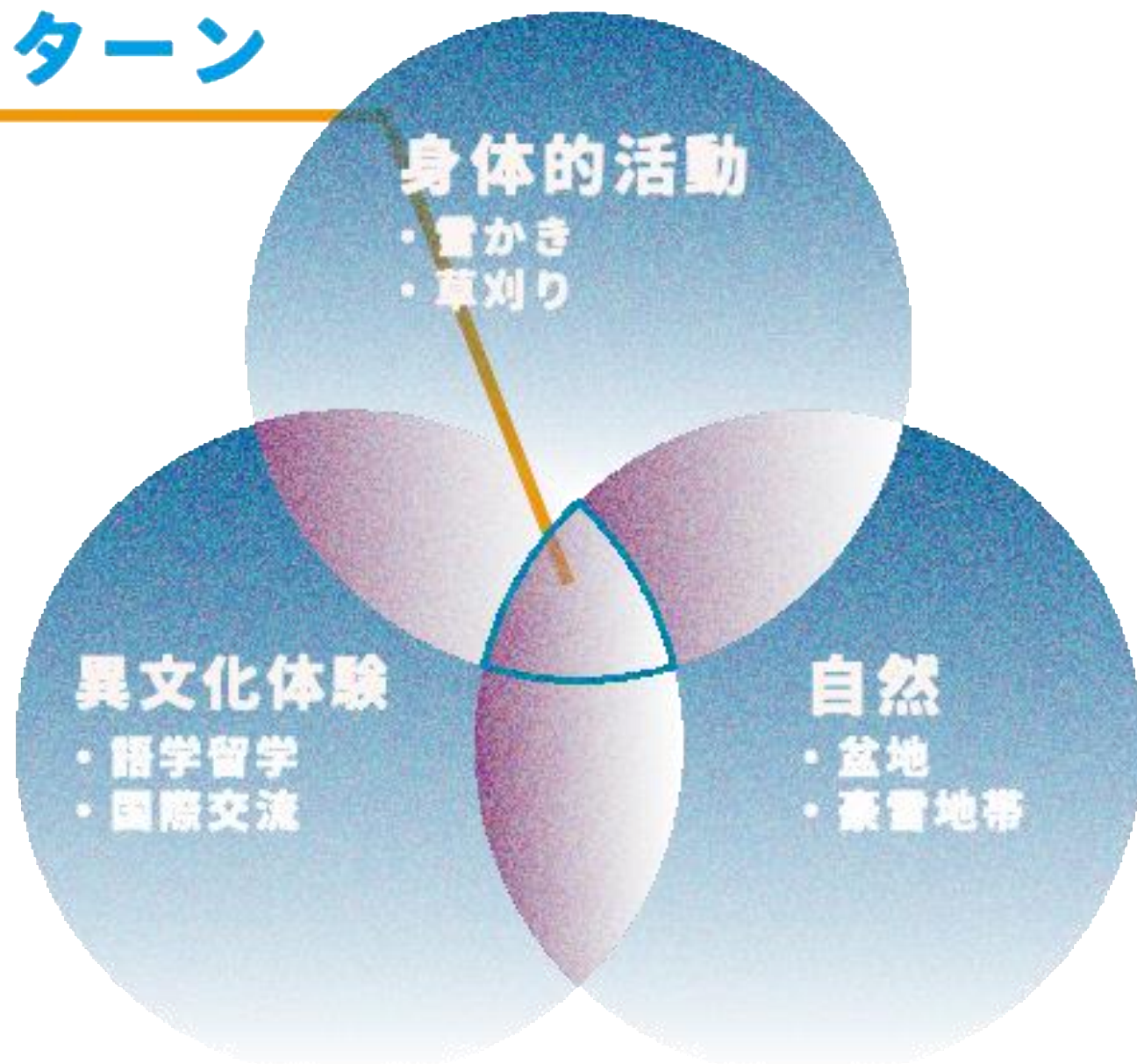
前回の実績

2024年度冬：6名受け入れ/参加申し込み8名

2025年度夏：15名受け入れ/参加申し込み25名

2025年度冬：9名受け入れ/参加申し込み13名

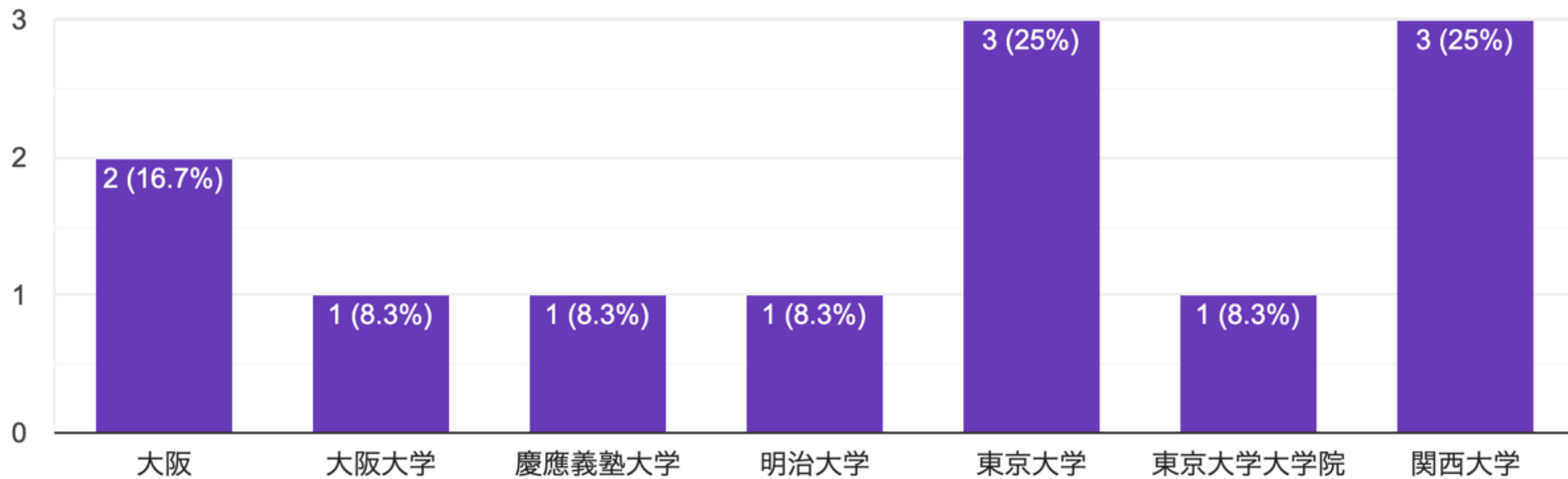
雪国 インターン





大学

12 件の回答



都市部の大学への広報は「会いに行く」ことから始めた

- ・ 関東・関西・中京圏の大学の「**地域連携を主に扱う部署**」を対象に広報営業を実施
- ・ メールだけでは伝わらないと感じ、**実際に大学を訪問**
- ・ 結果として45大学とやり取り → 広報OKは約半数の**25校**

広報営業で直面した「厳しい現実」



慶院



「うちの学生は企業に就職することにしか興味がない」
「学生の成長＝就職に役立つ経験」
地域から単身で訪問すると、話を聞いてもらえないことも多かった

そんな中でも、評価してくれた大学もあった

とある大学でかけられた言葉

「学生の大半が大企業に就職してしまう。その前に地域を知って欲しい。」

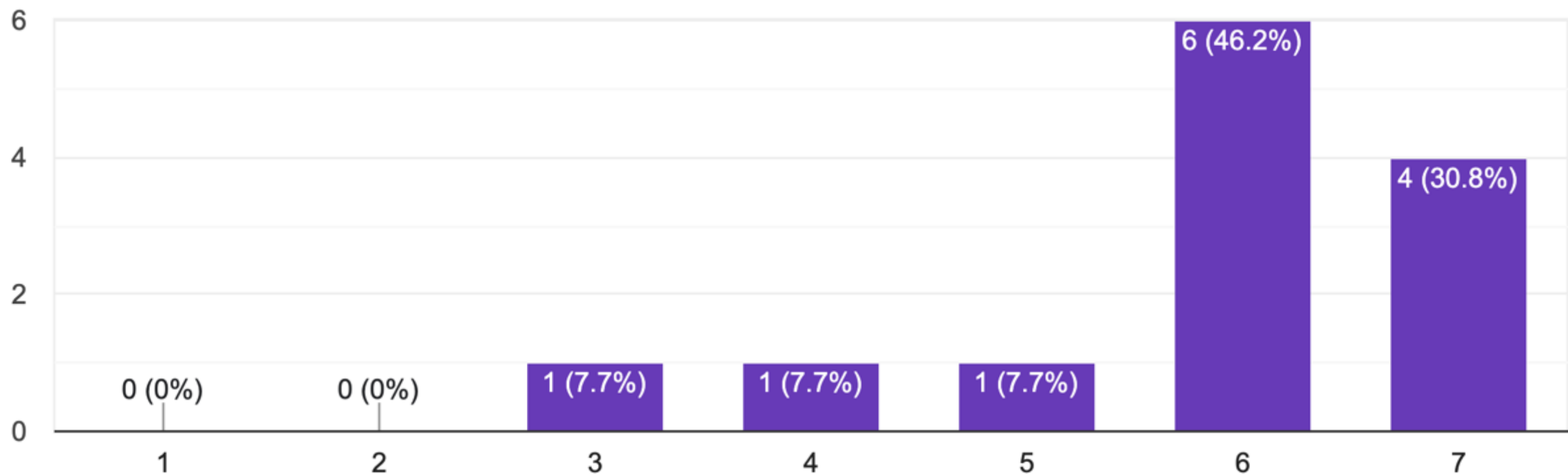
「大学としては“人を育てる”ことを大切にしているからこそ、地域を知る機会をつくりたい」

「連携協定の下で、スタジオのような環境をつくりたい」

ただし、課題もありました

現地に人を配属できない、予算確保が難しい

横町スタジオのような地域住民と様々な学生が協働して活動・滞在できる拠点が必要であると思った
13件の回答



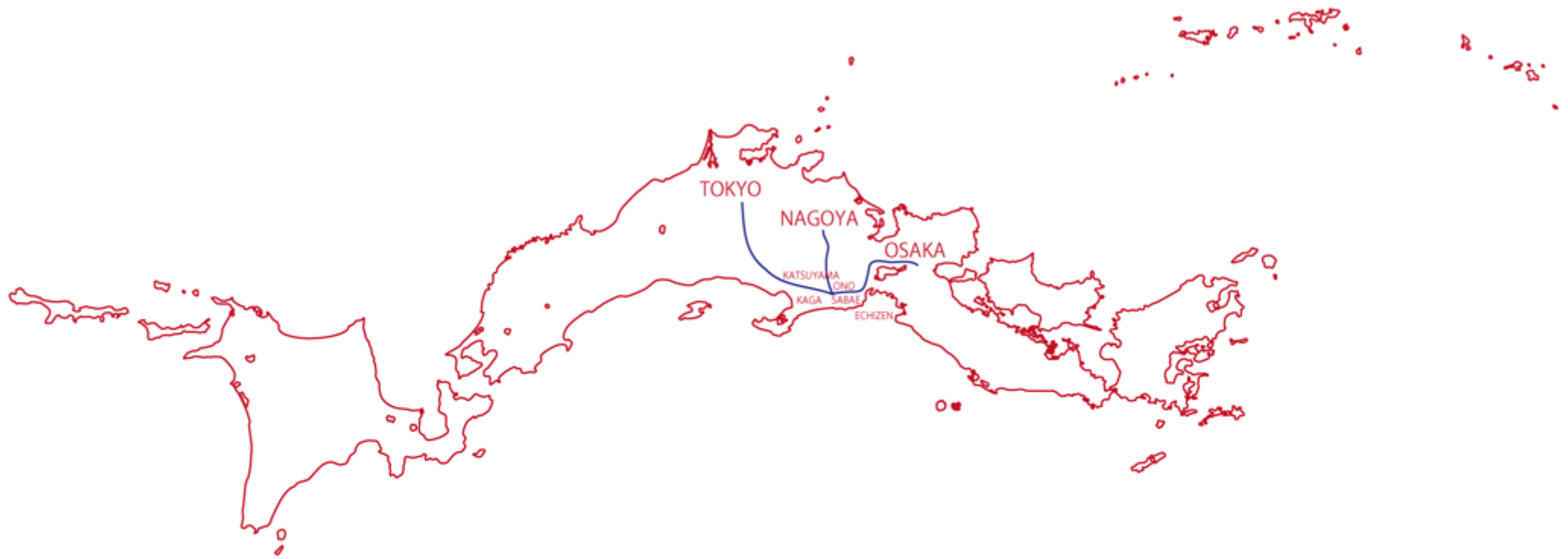
病院

つまり・・・



拠点 + 仕組み + 人材があるというのは先進的事例であるということ

**大学連携事業で得たノウハウを
地域が主体となり展開するフェーズ**



3.5H WORK-LIFE LOCAL CITY

- population density -

23 ISHIKAWA	1 TOKYO
30 GIFU	2 OSAKA
32 FUKUI	5 AICHI

